

おぎくぼドレミファタウンDCP構想

おぎくぼを音楽の街に
～メロディと笑顔に包まれる街 おぎくぼ～

Music

荻窪には先人たちの築いた文化的な風土があります。荻窪を「音楽の街」にすることは、音楽を楽しむことを通じて、文化的遺産を次の世代につなげていくことでもあると考えます。

でも、やっぱり何と言ってもいちばんは、音楽の楽しさ、愛嬌らしさ、日々の暮らしに音楽がある喜び、これに尽きます。

「ドレミファ広場」は区民演奏家たちのハレの舞台、多くのチャッパリーに囲まれながら演奏できる街の真ん中にある自慢のステージです。

わが街 荻窪が音楽に満ちあふれた街になったら、どんなに素敵なことでしょう。

Renewal

ルミネの東側部分を解体し、そこに南北を一時的につなぐ伸びやかなデッキ広場をつくり出します。同時に、ルミネの南側に低層の商業施設「おぎくぼムジカ」を建設し空に張り出すように増築します。

ルミネは、解体で減った床面積の代わりデッキに新設した魅力的な商業空間を活用できるようになります。

新しく生まれた商業施設にのびわいが、デッキ広場にふれ出し、北側へと広がっていきます。荻窪駅ににぎわいが生まれ、デッキ広場を介した回遊性が高まります。



2000年の春、地元有志が「荻窪音楽祭」をスタートさせました。音楽を楽しむだけではなく、街づくり活動で南北の一体化を図ろうというこのイベントは、荻窪の街に定着してきています。荻窪らしい魅力にあふれ、笑顔いっぱいの賑わいを創り出す「音楽」を真ん中に据えて、荻窪駅周辺のまちづくりを進めようという提案です。

荻窪駅の真上には駅の南北をつなぎ一体化する「ドレミファデッキ」を設け、デッキの中央にみんなの晴れ舞台となる屋根つきの「ドレミファ広場」を設けます。このデッキが、荻窪の街をつなぎ、回遊性を高める広場となり、音楽が溢れる緑と憩いに満ちた舞台となります。

北口駅前広場周辺では、緑豊かな駅前広場の再整備と合わせた再開発を進め、音楽の街を象徴するシンボルビルや、拠点駅の災害に強いまちづくりを支える防災拠点ビルを整備します。

Plan



DCP

荻窪駅周辺は、地震時の危険が極めて高いエリアの1つです。首都圏下地震の幅には、大きな被害が生じるおそれがありますし、東日本大震災の経験からも多くの構造的脆弱性が指摘されていることが予想されます。大災害に備えたまちづくりが必要です。

ドレミファタウンの整備にDCP(District Continuity Plan)の考え方を取り入れ、街と人を守る拠点を形成します。

